月刊 あなたにこの本を！ 平成 27 年 6 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

…字が大きめ　…中高生にも　…図・写真が多い

※価格のあとの（ ）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

まちライブラリーのつくりかた
ー本で人をつなぐー

礒井純充　著
学芸出版社　1800 円
(0013386065)

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

まちライブラリーとは、メッセージを付けた本を持ち寄り、カフェやオフィスなどまちのあちこちに小さな図書館をつくって、人と出会おうという活動だ。2011 年に著者が、人と触れ合い、お互いに学び合える会を作りたいと考えて始めた。今では全国 120 ヶ所以上に誕生している。本は心のよりどころで、人の気持ちは本を通じて表れてくると著者は言う。本を紹介しあうことで、多様な価値観に出会い学ぶことのできる、まちライブラリーの魅力が伝わってくる。〔016.29〕

小さいことはいいことだ
ーグリコおもちゃデザイナー物語ー

樋口須賀子　編著
アットワークス　1800 円
(0013401038)

ジャンル ： 大阪にゆかりの本

本書は、生涯グリコのおまけを作り続けたおもちゃデザイナー宮本順三の一代記だ。画家の道を断念した彼は、グリコのおまけ係に志願、独創的なアイディアを次々と形にしていく。戦中、戦後の物資不足時にも廃材を利用する等、創意工夫をこらし、子どもたちのためにおもちゃを作りつづけた。後年、長年の夢だったおもちゃコレクションを展示する豆玩舎（おまけや）「ズンゾ」を設立する。子どもたちへのやさしい思いが詰まった一冊だ。〔Bミヤモ〕

アフガニスタンぼくと山の学校

長倉洋海　著
かもがわ出版　2000 円
(0013261612)

ジャンル ：生き方・考え方に学ぶ

世界の紛争地を取材する写真家の著者は、「アフガニスタン山の学校支援の会」を設立し、パンシール渓谷ポーランデ地区の子どもたちに 10 年にわたり教育支援を行っている。本書はその支援活動の取り組みと現地での交流を写真とともにつづる。紛争が続き、国は貧しく、子どもたちが学ぶ環境は厳しい。だが写真の中の彼らは、学ぶことを心から喜び、力強く生き生きとした表情を見せている。子どもたちが教育を受けることの大切さを改めて感じる一冊だ。〔372.2〕

エボラ出血熱とエマージングウイルス

山内一也　著
岩波書店　1200 円
(0013412231)

ジャンル ：自然・環境を考える

エボラウイルスのように、突然出現し、感染症を引き起こすウイルスのことをエマージングウイルスという。長年にわたり、ウイルスによる感染症の拡大防止に関わってきた著者が、エボラ出血熱など致死率の高い感染症の実情を報告する。日本では、エボラウイルスなどを検査できる施設がなく、分析などはアメリカに依存しているため、迅速な対応ができない懸念があるという。エマージングウイルスと感染症について、正確な知識を得るための格好の入門書だ。〔493.8〕

461 個の弁当は、親父と息子の男の約束。

渡辺俊美　著
マガジンハウス　1500 円
(0012972954)

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

音楽家でシングルファーザーの著者は、高校へ入学した息子と毎日の弁当作りを約束した。本書は、3年間で作った461個の弁当の内、46個を写真付きで掲載し、弁当作りでのこだわりやエピソードをつづる。週末地方ライブから帰った翌朝に特産品で作った弁当や、恋に悩む息子のためのダイエット弁当など、手作り弁当の数々からは親子の交流や愛情が伝わってくる。父から息子へ、息子から父への感謝の言葉も掲載され、読後には温かな気持ちになる。〔596.4〕

国境を越えて愛されたうた
ー「上を向いて歩こう」から「アメージング・グレース」までー

竹村　淳　著
彩流社　1900 円
(0013345777)

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

著者は、歌はその土地の言葉、風土に根差したものだと言う。それでも、生まれ故郷を離れ、国境を越え、言葉や人種の壁をものともせずに根付き、人々に愛されてきた歌がある。名歌が時代を超えて愛され続けるのはなぜなのか。本書では、ラテン音楽をはじめ、どこかで耳にしたことのある世界の 22 曲を取り上げ、作者や歌にまつわるエピソードなど、その魅力を伝える。今まで知らなかったその歌の側面に触れ、思いを新たに味わい楽しめる。〔767.8〕

戦国の日本語
ー五百年前の読む・書く・話すー

今野真二　著
河出書房新社　1600 円
(0013415552)

ジャンル ： 知識・教養を深める

戦国時代の日本語がいかなるものだったかを、室町時代の辞書『節用集』、豊臣秀吉の書状などを例に、多面的に考察する。宣教師たちが日本語をローマ字で記したキリシタン文献からは、当時の発音の実態を知ることができる。また、漢文で書かれた公家の日記『実隆公日記』には「沈酔」「乱酔」という語が頻出し、戦乱期の不安感が読みとれるという。言葉の形態を丹念に読み解くことで、言葉の背景にある文化や時代の雰囲気を感じることができる。〔810.24〕